



# 埋文だより

第72号

平成29年 2月27日発行



上空から見た久慈白糖工場跡（赤丸付近）周辺

## 南海の集成館プロジェクト

黒糖の生産は、江戸時代を通じて薩摩藩の重要な財源でした。ところが、幕末期に黒糖の価格が下落し、藩は経済的な打撃を受けます。この状況を改善するため、藩は黒糖生産の中心地であった奄美大島に「白糖工場」の建設を計画し、久慈（瀬戸内町）のほか、金久（奄美市名瀬）・瀬留（龍郷町）・須古（宇検村）の4か所を選定します。これらの施設は、建材に輸入煉瓦やトタン・凝灰岩切石等を使用し、蒸気機関による洋式機械を導入するなど、当時としては最先端のものでした。なかでも久慈の工場は、煙突7本・建物の規模が90m×27m（2階建）という威容を誇る大規模なものであったといわれています。（2ページに関連記事）

### 目次

- ・南海の集成館プロジェクト…………… 1
- ・遺跡公開 現地説明会開催…………… 2・3
- ・発見！発掘速報…………… 4・5
- ・遺跡詳解…………… 6